

家庭や地域で もしもの災害に備えよう

昨年8月16日に震度6弱を観測した宮城県沖地震。地震の規模を表すマグニチュードは7.2で、プール施設の天井が落下するなどの被害がありました。私たちの住む滋賀県でも、琵琶湖西岸断層帯を震源とするマグニチュード7.6程度の地震の発生が予測されています。

一昨年は観測史上最多となる10個の台風が日本に上陸し、また、今年7月には日本各地で集中豪雨による土砂災害が起き、深刻な被害をもたらしました。このような自然災害をすべて防ぐことはできませんが、災害に備えることで被害を最小限にすることができます。防災に対する意識を高め、日ごろから家庭や地域の中で対策を立てておくことが何より大切です。

今回は、家庭や地域でできる自主防災活動について考えてみましょう。

防災の第一歩は家庭や地域から

自分たちのまちは、自分たちで守る

大規模な地震が発生すると、同時にいくつも火災が発生したり、水道や電気、ガス、電話が寸断したり、道路が破壊されるなど大きな被害が生じます。このような状況では、消防や行政機関の防災能力が低下し、すみやかに対応できないことが考えられます。

そこで、災害発生直後の初動対応では、行政による活動を待つのではなく、そこに住む人々が自らの生命を守り、助け合うことが大変重要となります。実際に、阪神・淡路大震災では、生き埋めや建物に閉じ込められて救助され

た人々のうち、約95%が自力、または家族や隣人によって救助され、専門の救助隊に助けられたのは1.7%でした。

しかし、消火活動や救出活動などを行う場合、各自がバラバラに行動しても個人の力には限界があり、かえって危険な場合もあります。そこで、地域の皆さんが連携して自主防災組織を構成し、日ごろから災害に対する備えをして、いざという時に組織的に行動できれば、災害時の初動対応において大きな力となります。



★できていますか？

家の耐震・家族の確認

地震や洪水はいつ発生するか分かりません。もしもの時のために、日ごろから次のことを確認しておきましょう。

- 自宅の耐震化
- 家具の転倒防止
- とっさの安全確保と火災防止の手順
- 非常持ち出し袋の準備と置き場所
- 幼児や高齢者の避難補助の役割分担
- 自分(家族)の避難場所
- 家族間の連絡方法と最終の避難場所

★できていますか？

非常持ち出し品の備え

避難生活に最低限必要なものをリュックサックなどの非常持ち出し袋に入れて、すぐに持ち出せる場所に備えておきましょう。

持ち出し品の例

- 携帯ラジオ(予備の電池も)
- 懐中電灯()
- 飲料水(ペットボトルが便利)
- 食料(火を通さなくて良いもの)
- 衣類(下着、上着、タオルなど)
- 貴重品(健康保険証のコピーなど)
- ライター はさみ 軍手
- ティッシュ 救急医療品
- 乳幼児がいる家庭は、ミルク、ほ乳びん、紙おむつなど

9月1日は防災の日、8月30日～9月5日は防災週間です
 もしもの時に備え、家庭や地域で災害について考え、災害に強いまちづくりを進めましょう！

自主防災活動の例

平常時の備え

- 災害時の行動マニュアルの作成（避難場所の確認）
- 地区住民の確認（各世帯の人数、高齢者世帯の確認）
- 倒壊しそうなところや土砂崩れなど危険箇所の確認
- 防災広報 防災訓練の実施

災害発生時

- 出火防止・初期消火 被災者の発見・救出
- けが人の手当て・看護 避難の誘導
- 災害情報の伝達 被害情報の収集・報告

	平常時	災害時
情報班	防災知識の普及、災害時の情報収集・伝達の計画	正確な情報収集と伝達
消火班	消火方法や消火器の使用の訓練	組織的な消火活動
救出救護班	応急手当の知識の習得	負傷者の手当て
避難誘導班	避難ルートの確認 避難誘導の計画	避難誘導・避難先での統率
給食給水班	炊き出し等の訓練	食料・水などの支給

東桜谷地区では、昨年度、現役の消防団員と消防団のOBが中心になり、「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを目的とした「東桜谷ぼうさい会議」を設立されました。

災害発生時、各字の住民が連携して活動を行うことが被害を軽減する大きな力となるため、まずそれぞれ各字に「自主防災組織」を作ることから取り組まれています。昨年度、東桜谷地区各字に、災害発生時の避難場所や字役員を中心とした情報収集係、避難誘導係などの役割分担の参考例をまとめた自主防災組織マニュアル案を配布されました。各字では現在、組織作りと福祉と連携した防災マップ作りを進められています。



東桜谷ぼうさい会議



8月6日(日)、西大路2区で地域の防災訓練が行われ、多数の区民の方が参加されました。今回は、日野消防署員の指導の下、消火栓と消火器を使用した消火訓練を実施。訓練には、地元消防団員や自警団員も参加され、本番さながらの消火活動が行われました。

区長の中野信太郎さんは、「いつ起こるかもしれない地震。自分で家族を守り、自分たちで地域を守る自主防災活動を行うため、平成8年から区と福祉会が協力して訓練を計画しています。いざという時には、このような訓練が必ず役に立つと思いますので、これからもいろいろと内容を変えて続けていきたいです」と話されています。

西大路2区で防災訓練

字の役員、自警団、福祉会などが連携した自主防災組織の活動が、災害に強い、安全な地域をつくることになるでしょう。

いざ大災害が発生したとき、力を発揮するのが「地域ぐるみの協力体制」です。自主防災組織とは、地域の人々が自発的に防災活動を行う組織で、「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えを持つことが大切です。防災活動には、積極的に参加し、地域の防災力を高め、災害に強い安心なまちづくりを進めましょう。



徳谷区では、女性を対象に、自警団が小型動力ポンプを使った消火訓練の講習を行うなど、区全体で防災活動に取り組みれています。また、昨年の7月に字福祉会を設立され、「防災マップ作り」をテーマとして取り組まれました。当時の区長や区役員、民生委員などが中心となり作成され、徳谷会議所に保管されています。

今後も、マップの完成度を高め、災害時に助けが必要な方を誰が助けに行かかなど、字の中での役割分担を決め、区全体で助け合いができるような体制作りを目標に取り組まれています。

徳谷区で防災マップ作り